

科目名	ウィメンズヘルス看護学演習 I Seminar on women's health nursing
授業形態	演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春C 月曜5,6時限 金1,2時限
単位数	2単位
担当教員名	岡山 久代 Hisayo Okayama 川野亜津子 Atsuko Kawano 金澤 悠喜 Yuki Kanazawa
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	岡山 久代 4B棟 509 okayama@md.tsukuba.ac.jp オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること
授業の到達目標 (学習成果)	ウィメンズヘルス看護学領域の看護課題を整理できる。 自らの関心のある分野の文献を読み、研究課題、研究方法、看護の質を評価する意義および方法、看護研究の倫理について説明できる。 各自の研究テーマを明確にし、研究計画をたてることができる。 研究テーマに即して研究方法をプレゼンテーションすることができる。
他の授業科目との関連	
履修条件	なし
授業概要	思春期から更年期にある健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、科学的思考を実践に生かすために、より高度な看護活動の方策、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について理解し、看護実践研究の基礎的能力を修得する。
キーワード	女性の健康 Women's Health 助産学 Maternity 周産期ケア Perinatal Care

<p>授業計画</p>	<p>文献クリティークを基本に行う。必要な事前準備をして講義に臨むこと。なお、グループディスカッションの時間を設ける。</p> <p>1 (7/5 1-2限) (健康問題のある女性および家族の支援と看護) (岡山)</p> <p>2 (7/8 5-6限) (リスクを伴う生殖行動と健康支援に関する論文講読および解説) (岡山)</p> <p>3 (7/12 1-2限) (周産期の女性の健康障害と看護に関する論文講読および解説 I) (川野)</p> <p>4 (7/19 1-2限) (周産期の女性の健康障害と看護に関する論文講読および解説 II) (川野)</p> <p>5 (7/22 5-6限) 家族・サポートシステムの障害と看護に関する論文講読および解説 I (川野)</p> <p>6 (7/26 1-2限) 家族・サポートシステムの障害と看護に関する論文講読および解説 II (川野)</p> <p>7 (7/29 5-6限) 母子関係および母性性の発達過程の障害とその支援に関する論文講読および解説 I (岡山)</p> <p>8 (8/2 1-2限) 母子関係および母性性の発達過程の障害とその支援に関する論文講読および解説 II (岡山)</p> <p>9 (8/5 5-6限) 胎児・新生児の障害とその支援に関する論文講読および解説 I (金澤)</p> <p>10 (8/9 1限) 胎児・新生児の障害とその支援に関する論文講読および解説 II (金澤)</p> <p>(8/9 2限) 健康問題のある女性および家族に対する母性看護学・助産学の貢献と研究方法について (岡山)</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>講義ごとに課題を提示することがあるので、事前に確認すること</p>
<p>成績評価方法</p>	<p><評価方法と配分役割></p> <p>授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p><評価基準></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な問題を設定できる。 2. 設定した問題の背景を説明できる。 3. 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。 4. その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げる事ができる。 5. 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べる事ができる。 <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。</p> <p>A+ 上記1～5を自身で達成できる。</p> <p>A 上記1～5をほぼ自身で達成できる。</p> <p>B 上記1～5を教員の指導を受けながら達成できる。</p> <p>C 上記1～5を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等</p>	<p>取り上げる文献については、事前に連絡をする。研究方法の資料等は各自で必要に応じて準備すること。</p>
<p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p>	